

アルミ製品のオーダーメイド専門メーカー「エーディエフ(ADEF)」(大阪市西淀川区、島本敏社長)が、感染症対策となる車いす用の陰圧ブース「あんくま」を横浜市立市民病院と共同開発した。病院現場の要望に応え、新型コロナウイルス禍の患者にもスタッフにもやさしい仕様を実現し、大きな注目を集めている。

車いす用の陰圧ブースは、隔離を要するコロナ患者が院内を移動する時に大きな役割を果たす。コロナ対応にあたる同病院は現場のニーズに適した自作品を使いながら、製品化できるメーカーを探していた。

自作品のアルミフレームがADF製だったことから、つながった縁。相談を受けた島本社長が「自作品の完成度は高く、病院関係者の熱意を強

# 車いすにコロナ対策

## 院内用 陰圧ブースを共同開発

西淀川の  
ADF



車いす用陰圧ブースの開発にあたった武中さん(左)と林さん

つ拡散を防止するフィルター付きファンがあり、バッテリー付きで7時間連続駆動する。手すりの位置やキャスターも自作品から改良を加え、使用を始めた病院では「乗りやすい」など評判は上々だ。10月に出張した東京の展示会では「折りたためないか」「もう少し小さいのは」と業界内のさまざまな声に触れ、さらなる改良の可能性も広がった。

中心になって製作にあたった林慎也リーダー(50)は「陰圧ブースはさらに改良してみたいし、お客さまから依頼はひっきりなしに来ているので新しい製品にも挑戦していきたい」。

く感じた」と快諾。オーダーメイドのプログラムが集まる一品フレームで大きめ(外寸高さ事業部で開発にあたり、8月180センチ、幅73センチ、奥行き111センチ)に囲い、側面は消毒しやすいタイプの2号機を完成した。すい透明パネルを採用。飛まつ

閉塞感を抑えるためアルミ「少しでも人の役に立ってるよ」と、お客さんと一緒になって良いものを作っていきたい」と話していた。(北野保司)